

第 17 回大気バイオエアロゾルシンポジウム

(案)

2026 年 2 月 22 日（日）－23 日（月祝）
近畿大学 東大阪キャンパス 3 号館 501 教室
（〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3 丁目 4-1）

事務局

バイオエアロゾル研究会

共催

近畿大学 理工学部

科学研究費 基盤研究費 (A) 「東アジアを越境するバイオエアロゾル：日本本土への拡散・沈着とその生体影響の評価」

科学研究費 基盤研究費 (A) 「黄砂バイオエアロゾルの越境ルートで変遷する大気微生物群集とその健康影響の解明」

科学研究費 国際共同研究加速基金 国際共同研究強化 (A) 「森林バイオエアロゾルの高高度大気観測：風送拡散とその気候影響の全球規模での評価」

科学研究費 挑戦的研究（萌芽）「大気環境メタゲノムをタンパク発現系で機能させた未知なる氷核活性遺伝子の探索」

はじめに

バイオエアロゾルの学術研究は、エアロゾル学、気象学、医薬学・公衆衛生学、環境学、微生物学等々の様々な研究分野に波及しつつあります。特に、エアロゾルによる感染症の伝播に関心があつまり、医療業務、室内換気、労働環境、日常生活におけるバイオエアロゾルへの管理対応が求められています。本シンポジウムでは、各関係者のバイオエアロゾル研究の成果や計画展望をお話いただき、意見交換の場にしたいと考えております。内容としましては、バイオエアロゾルの起源・発生機構や拡散メカニズムの解明、その測定手法や検出手法、国内外の乾燥地・都市部・森林や海洋での観測調査、ヒトや動物その他の健康影響、農業や漁業への影響、雲形成・降水との関わりや気候変動影響、食文化や産業との関係、天然遺産や文化財・遺跡の汚損などの幅広い分野を取り扱います。

アジア圏では、日本国内の複数の大学によって、中国、韓国、モンゴル、シンガポールの研究者とともに大規模な観測調査が展開され、特に、海外研究者によるバイオエアロゾルへの新規参画も目立つようになっていきます。また、国内観測サイトも強化され、全国の大学や研究期間で継続的にバイオエアロゾルの観測研究がなされています。こうして、垣根を越えた多様な研究成果が続々と報告されるようになりました。その中でも、大気中を浮遊する微生物の遺伝子データベースが急速に充実しつつあり、気象観測や疫学的調査、動物実験のデータと組み合わせることで、バイオエアロゾルの動態におよぼす環境因子が特定され、その環境・健康影響も盛んに議論されるようになっていきます。そこで、今回は「バイオエアロゾルの動態と影響」をテーマに掲げ、環境や健康に関わる研究者がバイオエアロゾルを介して繋がれる場にしたいと思えます。バイオエアロゾルの国内外での野外観測、その成果などに関心のある方は奮って参加いただけると幸いです。

2026年2月

バイオエアロゾル研究会代表

岩坂 泰信（環境創造研究センター）

第17回大気バイオエアロゾルシンポジウム 現地実行委員長

牧輝弥（近畿大学）

プログラム（仮）

近畿大学 東大阪キャンパス 3号館 501 教室

2026 年 2 月 22 日（日）－23 日（月・祝）

発表時間：15 分（質疑込）／件

（発表件数によっては開会・閉会時間変動する可能性があります。ご了解ください。）

2 月 22 日（日）

13:00 - 13:10 開会の挨拶

岩坂 泰信（環境創造研究センター）

13:10 - 14:40 セッション 1

バイオエアロゾルの分析手法

14:40－15:00 休憩

15:00 - 16:15 セッション 2

バイオエアロゾルの分布・拡散状況、拡散予測、その他

16:20 - 17:55 セッション 3

バイオエアロゾルの健康影響

18:30 - 20:30 研究交流会 ※会費 5000 円前後で準備する予定です。（近大付近）

2 月 23 日（月・祝）

9:30 - 11:30 セッション 4

黄砂、煙霧、バイオエアロゾルの観測・採取技法

11:30 - 13:00 休憩

13:00 - 14:30 セッション5

バイオエアロゾルを標的としたゲノム解析、大気・大陸・海洋環境での観測

14:30 - 14:55 セッション6

大気バイオエアロゾル研究の今後

〔司会〕岩坂泰信（環境創造研究センター）「これからのバイオエアロゾル研究プロジェクトの構想、バイオエアロゾル研究会のあり方、教科書執筆の途中経過、その他」

14:55 - 15:00 まとめと閉会の挨拶 岩坂泰信